支 部 通 信

日本山岳会山梨支部　　第３期第 14 号
令和５年６月 30 日

定時総会を開催

日本山岳会山梨支部の定時総会を 4 月 15 日（土）午後 6 時、甲府市・ぴゅあ総合で開催した。会員数 65 名のうち、出席者は定足数を超える 59 名（出席 21 名、委任状 38 名）となり総会は成立した。

昨年の総会直後に逝去された故遠藤靖彦顧問・元支部長に黙祷が捧げられたあと、北原支部長が挨拶。年度方針として掲げた基本的な行動指針として、年度計画の推進・安全登山の徹底実践・会員獲得のため支部一丸となって行動すること、具体的には情報共有による支部活性化、第 8 回やまなし登山基礎講座・JAC 創立 120 周年記念山岳古道調査・第 63 回木暮祭の実施、第 5 回田部祭への協力、会議オンライン化の研究、雪山ステップアップ入門講座・富士山雪上訓練など事業はほぼ計画どおり達成し、登山届の提出基準も明確化したことを報告、新年度方針として、支部活動の個別化・多様化への対応、山岳古道調査の推進、会員増強対策などの所信を述べた。

その後議事に入り、第 1 号議案令和 4 年度事業報告・第 2 号議案同収支決算報告・監査報告が承認された。続いて第 3 号議案令和 5 年度事業計画案・第 4 号議案同収支予算案が原案どおり承認された。次に報告事項に入り、令和 4 年度その他報告として『甲斐百山』第 4 刷 500 部発行、第 8 回やまなし登山基礎講座のほか、本部・支部各事業などと、令和 5 年度その他予定が報告された。

続いて、山行委員会から登山届提出徹底のため、支部員向け山行通達・支部主催山行マニュアル・登山計画書（登山届）フローチャート・エントリーシートなどの説明があった。

コロナ禍も完全には落ち着きを見せていないため、恒例の懇親会は昨年同様後日開催することを約束し、午後 7 時閉会した。（古屋寿隆）

2023 第9回やまなし登山基礎講座の概要

９回目を迎える「やまなし登山基礎講座」を次のように開講する。登山初級者や登山の基礎知識・技術を学び直したい中級者を対象に、下記の内容で実施。運営補助など、会員の協力をお願いしたい。

① 9/ 7（木）オリエンテーション、日本山岳会について、山の天気と観天望気
② 9/14（木）安全安心登山の基本、装備・服装・食糧
③ 9/21（木）地図読み、山の救急医療
④ 9/23（土）実践登山１＜地図読み・ロープワーク・セルフレスキュー＞（茅ヶ岳）
⑤ 9/28（木）山岳遭難、山の自然保護
⑥ 9/30（土）実践登山２＜総合登山・山岳写真＞（高川山）
⑦ 10/5（木）山の文学、山梨の登山史、修了式

①②③⑤⑦の開催場所・時間は、は甲府市総合市民会館、午後 7：00～9：10。受講料 15,000 円は、テキスト代・資料代・山岳保険代・写真代に充てる。⑤の「山岳遭難」は、山梨県警察本部地域課山岳警備安全対策隊長に講師を務めていただく。無料で一般公開する予定である。（矢﨑茂男）

山梨県山岳レインジャー活動計画について

本年度の山梨県委託事業の山岳レインジャー行動計画は下記のとおり。対象高山植物は「山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例」の特定種 25 種（キタダケソウは環境省所管で任意）。4 月 23 日・25 日に事前学習会があり、綿密な調査により経年変化等を確認することが示された。

① 6 月 10 日・11 日　鳳凰三山（御座石鉱泉～旭岳～燕頭山～鳳凰小屋～地蔵ヶ岳往復）

1 泊 2 日・定型路②　対象：カモメランほか

② 6 月 18 日　三ツ峠（御坂口・金ヶ窪沢登山口～屏風岩～三ツ峠山・御巣鷹山・木無山周回）日帰り・探索　対象：カモメランほか

③ 7 月 1 日・2 日　白根三山（広河原～白根御池～草すべり～肩の小屋～山頂～草すべり・右俣～二俣～白根御池～広河原）　1 泊 2 日・定型路②　対象：北岳固有種ほか

④ 7 月 8 日　八ヶ岳（観音平～三ツ頭往復）　日帰り・定型路②　対象：ムシトリスミレほか　（古屋寿隆）

山行報告

【雪山ステップアップ講習(3)】

■山行日：令和 5 年 3 月 18 日（土）～19 日（日）　■地図：2 万 5 千図「八ヶ岳西部」

■行程：茅野駅―桜平―夏沢鉱泉―根石岳山荘泊―根石岳―夏沢峠―硫黄岳―夏沢峠―オーレン小屋―夏沢鉱泉―桜平―茅野駅

■参加者：小宮山千彰、石澤貴子、服部俊樹、鈴木大介、遠藤辰也、保延稔、飯島真由子

茅野駅は雨。夏沢鉱泉の迎えの車に乗り桜平に着いた時には、それがすでに雪に変わっていた。深々と降り積もる雪の中、翌日は晴天という予報に賭けて 7 人で歩き始めた。トレースはあったが、降雪のスピードが思いのほか速く、みるみるうちにトレースは緩やかな凹みに変わっていく。モノクロの景色の中で、唯一の色彩を放っていたのが私たち 7 人のザックとウエアーだった。

山の先輩が「八ヶ岳は風ヶ岳」とおっしゃるとおり、根石岳のあたりは強風だった。樹林帯から出て根石岳山荘までのほんの数百メートルは、左方向からの強風にひたすら耐える時間。寒いのか痛いのか分からなくなる。1 日目に予定していた東天狗岳は諦め、翌日に期待して根石岳山荘に到着する。ストーブを囲んで一般の登山者とも交流をはかりながら、山談議で盛り上がった。

翌日は晴天。根石岳、硫黄岳に登頂した。予定通りの絶景だ。ガガーリンの言葉を証明する見事な八ヶ岳ブルーをゲットできた。天狗岳の吊り尾根の曲線は、まるで雪を計って降らせたかのような、完璧な芸術家の絵画だった。

前日の降雪のため硫黄岳の後半はノートレース。リーダーがラッセルしながらルートを確認して登る。ルートファインディングは後ろから見ていて、とても勉強になった。硫黄岳のケルンは重要な道標ということも身をもって実感した。

今回の雪山講習は、常に和やかな雰囲気だった。参加者全員が協力しあい、良い仲間関係が築けた山行だったと思う。

絶景写真の枚数と共に、雪山登山についての学びの多い 2 日間だった。添付の写真は、皆で撮り集めた 250 枚以上の写真の中から厳選した「7 レンジャー」の写真である。（石澤貴子）

【富士山雪上訓練】

■令和 5 年 3 月 11 日（土）～12 日（日）　■地図：2 万 5 千図「富士山」「須走」

■行程：馬返―佐藤小屋―五合目泉ヶ滝付近―馬返

■参加者：古屋寿隆、上田謙治、小宮山稔、磯野澄也、黒沼英美、石澤貴子、遠藤辰也

雪上技術の習得を目的として富士山で雪上訓練を行った。佐藤小屋にお世話になり 1 泊 2 日の実施。

1 日目は吉田口登山道馬返から登山開始。二合目より軽アイゼンをつけて河口湖を眺めながら昼過ぎに佐藤小屋に到着。昼食後、スバルライン五合目に向かう途中にて雪上訓練を実施し、以下の習得に励んだ。①直登・トラバース・方向転換等の雪山の歩き方　②ストック・ピッケルの持ち方・使い方と滑落停止、耐風姿勢　③その他ラッセルやグリセード、バケツ掘り等のコツ。

雪上でアイゼンを有効に機能させるために斜度に応じて足の置き方を変えることや、ピッケルを刺す位置や角度による危険回避の技術など、学ぶべきことが多かった。佐藤小屋に戻ってからは、翌日の訓練内容の事前確認やロープの結び方、雪山での心得の座学講習を行った。ロープの多種な結び方にはそれぞれの目的があることもよく理解できた。

２日目も晴天。朝８時より以下の訓練を開始した。①歩行訓練・滑落停止のおさらい　②ロープワーク　③アンカー（支点）の作り方　④ビレイ（確保）とロープ・カラビナを使っての登行。アンカーについてはバックアップを取っていなければどうなるかを確認し、ビレイとロープ登行については実際の転倒時にどれくらいの負荷がパートナーにかかるのかも体験した。

講師の皆さんは経験を交えて楽しく丁寧に説明してくださるので理解が大変深まり、これから多くの雪山に挑戦したくなった。また、覚えるべきことも多いので毎年受講したいと思った。（遠藤辰也）

【金時山】

■山行日：令和５年４月８日（土）　■地図：２万５千図「関本」

■行　程：御坂保健センター―公時神社―登山道―金時山山頂―金時茶屋―登山道―公時神社

■参加者：平松清子、北原孝浩、臼田まさみ、荻野重行、鶴田陽子、岩間明子

箱根の北側に位置する金時山は、箱根外輪山の最高峰であり、神奈川県南足柄市、箱根町、そして静岡県小山町との境にある。

朝７時に御坂保健センターに集合し、車２台に分乗し公時（きんとき）神社を目指す。リーダーが神社にお願いし駐車場所を確保してくれていた。

公時神社から登り始めてすぐに、紫のスミレが出迎えてくれた。観察と花の説明・写真撮影を行いながら登っていく。標高が上がるにつれ、白いスミレの花が見られるようになり、紫のスミレも花と葉の形が違う種類もあって、観察と撮影に余念がない。途中、急な斜面もあるが、花の観察を怠ることなく登って、見晴らしパーキングとの分岐に着いたところで休憩した。分岐を過ぎると、急な登りになるが、大涌谷と芦ノ湖が見える展望が開けた場所があり、煙を出している大涌谷と静かな風情の芦ノ湖を眺めた。山頂（1211m）に到着したときはきれいに晴れ上がり、雪をかぶった富士山の大展望が迎えてくれた。

４月上旬にしては暖かく、登りは汗ばむ陽気でシャツ１枚となったが、山頂付近は風が強く上着を１枚羽織った。金時茶屋で名物のキノコ汁を堪能し、山頂に設置してある金太郎伝説の大きなまさかりを担いで、全員で笑顔の集合写真を撮った。有料（100 円）の男女別のバイオトイレは綺麗に管理されていて気持ちがよかった。金時山山頂ライブカメラに映る自分の姿を確認するため、「天下の秀峰　金時山」の看板の近くから茶屋方面に顔を向け、金時山ライブカメラのホームページを開いて待つこと３分、山頂に立つ自身の姿を確認できた。さほど意味のない行為かも知れないが楽しいひとときであり、満足感を感じることができた。

同じルートを下山し、最後に公時神社にお参りした。一日無事に楽しく山登りができたことに感謝して、山梨への帰路についた。（荻野重行）

【大栃山】

■山行日：令和５年４月９日（日）　■地図：２万５千図「河口湖西部」「石和」

■行程：花鳥山一本杉駐車場―檜峯神社―大栃山―小栃山―花鳥山一本杉駐車場

■参加者：磯野澄也、北原孝浩、大澤純二、渡辺峯雄、中村光吉、渡辺和美、臼田昌美

山梨百名山の大栃山は、長い裾野を持つことから「黒駒富士」と呼ばれる。その西尾根を地図読みで、春山縦走した。

登山口の檜峯神社の手前に、立派な鳥居「碧雲洞」がある。銅鉱石(青石)発掘跡への入口らしい。八重咲豆桜が開花直前の参道は、檜の美林だ。まず心静かに参拝し、登山道両脇のカタクリ、フモトスミレの花を探し歩く。登った分岐点鳶巣（トビス）峠には、珍しい天狗のお地蔵様。更に登ると、昨夜の強風のおかげか、澄みきった青空が広がり目を奪われる。大栃山（1415m）山頂に着く。富士山がすくっと立ち上がる。南アルプス・八ヶ岳・奥秩父の大パノラマに、しばし時を忘れて山の思い出話に一時を過ごした。

さて、西尾根に向けて地図読み開始。各々、コンパスで方向を確認し、枯葉が、深々積った急坂を行く。途中、ミツバツツジに癒されつつ、倒木を避け、足元に注意を払いながらゆっくり進み、12 時にお昼タイム。ここから、尾根を右方向へ進み、小栃山（1086.4m）へ。ここは三角点だけの質素な山

頂である。その先、左右に別れる尾根を左方向へ進む。徐々に枯葉が少なくなり歩きやすい。途中、下から登って来た 2 組と出会った。このルートには、ステンレス看板が数本あり、「花鳥山１本杉へ 40 分」の場所は、細尾根と超急坂が危険なため、磯野リーダーに先導をお願いし、無事通過した。その後、道は明確になり、鹿避けフェンスの扉を出て畑に到着。リニア新幹線用送電鉄塔の下で、おやつタイム（珈琲と桜どら焼）。桃畑の花は、既に摘花（８割の花を摘むそうだ）されて、美味しい桃を作る準備が進んでいる。

素敵な青空の下、春山の縦走を存分に楽しんだ一日だった。参考までに、標高差登り 403m・下り 1028m、総歩行距離 6.8km。皆様、お疲れ様でした。(臼田昌美)

【茅ヶ岳と第 42 回深田祭】

■山行日：令和５年４月 16 日（日）　■地図：２万５千図「茅ヶ岳」

■行程：深田記念公園―女岩―山頂―尾根道―深田記念公園

■参加者：古屋寿隆、北原孝浩、矢崎茂男、大澤純二、大澤さな枝、渡辺峯雄、渡辺秀子、石澤貴子、大原光彦、JAC 坂井広志副会長

今年も、深田祭の当日に茅ヶ岳に登った。昨秋の横尾山登山・木暮祭に続いて、本部の坂井広志副会長が参加。一日降り続いた雨も上がり、萌黄色に包まれた絶好の登山日和になった。

昨年のこの日、登山路脇で花の盛りだったフジザクラは、すでに花期を終えていた。ゆったりと平坦な道をたどって女岩手前の分岐点へ。トラロープの向こうの女岩には、昨日の大雨が小滝となって落ちている。ここからは俄然急登となるが、午後１時半開始の深田祭に遅れないためには、ペースを上げなければならない。

稜線でひと息入れて、深田氏終焉の地へ。朽ちかけた標柱の左に新しい石碑が建っている。平成 9 年に、山梨支部の故山村正光さんらが深田氏を偲んで建立したものである。

山頂は今年も賑やかだった。一昨日、山梨を覆った濃厚な黄砂は雨に洗われて、四周の山稜は実に明瞭である。山頂の一角で昼食と談笑。記念写真を撮って山頂を辞した。

尾根道（防火帯道）を下る。途中のミツバツツジの群落は、今年も紫色の光彩を放っていた。下山終了は 12 時 50 分。急傾斜を性急に下ったため、「結構膝に来たねえ」との苦笑いが起きた。

第 42 回深田祭は午後 1 時 30 分から、記念碑の建つ深田公園で開催された。実行委員会会長の内藤久夫韮崎市長のあいさつに続いて、坂井副会長がスピーチ。山岳文学者・深田久彌の功績に触れた後、各地で開催されている山岳祭の状況と意義について解説した。また全国の 12 の山岳祭の内の 3 つが山梨県で開催されていることに触れ、山岳文化継承・発展の拠点として、深田祭はじめ山梨の山岳祭への期待を述べた。各団体の献花では、石澤会員が支部を代表して行った。（矢﨑茂男）

【十二ヶ岳】

■令和５年４月 23 日（日）　■地図：２万５千図「河口湖西部」「鳴沢」

■行程：河口湖長浜登山口―毛無山―十二ヶ岳―毛無山―長浜登山口

■参加者：荏原由美子、小宮山千彰、大澤純二、上田謙治、相川修、近藤美奈子

河口湖町長浜集落の東光寺の脇を通り登山口に着く。このルートはあまり人が入らないので、静かであり所要時間も短縮できる。参加者のお一人・上田さんが詳細な地図を準備してくれた。「この時期、運が良ければコイワザクラが咲いている」との情報に歓声が沸いた。

毛無山へは標高差 600 メートル程。四方山話に花を咲かせたり、急坂を励まし合って登ったりしながら毛無山に着いた。眼下に西湖の湖面が青い。正面には富士山が聳え立っているはずだか、あいにく山頂には雲がかかっていた。

ここから十二ヶ岳まで大小の岩峰が並ぶ。岩場、鎖・ロープのフィックスが次々に現れ、緊張の連

続だ。一ヶ岳、二ヶ岳・・・。中には無理やり名付けたようなピークもある。九ヶ岳だけ見つからないのは、危険回避のためルートが巻き道になっているためらしい。その謎の九ヶ岳周辺の岩場のあちこちに、なんと可憐なピンクのコイワザクラが群生していた。皆で夢中で写真を撮る。今回遠く長野から参加してくれた近藤さんには、スペシャルプレゼントとなった。可憐な花と岩場の緊張と爽快感。十二ヶ岳への稜線は、訪れる登山者をいつも楽しませてくれる。

無事山頂に着くと、富士山も顔を出してくれた。おいしく楽しい昼食の後はクライムダウンが待っている。周回ではなくピストンだとグレードがアップする。コイワザクラ、フジザクラを愛でながら、無事登山口に下山した。

「山はひとで決まる」という言葉を、今回も身に染みて感じた楽しい登山であった。いろいろな下調べをしてくれた上田さん、たくさんの写真を撮ってくれた大澤さんを始め、参加者の皆さんに感謝したい。（荏原由美子）

【第６回田部祭と西沢渓谷】

■山行日：令和５年４月 29 日（土）　■地図：２万５千図「金峰山」

■行程：蒟蒻館前駐車場―東沢山荘横バス停（西沢渓谷開山祭）―西沢山荘前田部重治文学碑（田部祭式典）―渓谷道―旧森林軌道終点―ネトリ広場―東沢山荘前・解散

■参加者：北原孝浩、小宮山千彰、古屋寿隆、大澤純二、磯野澄也、臼田昌美、大原光彦

奥秩父を開拓し、優れた文学的紀行文でこの山域を世に紹介した田部重治氏の遺徳を偲び感謝の念を持って開催される「田部祭」も６回目である。今年は例年と違い「西沢渓谷山開き」と同日に行うこととなり、山開きには当支部を代表して北原支部長が来賓として参加した。

午前 8 時 30 分から山開きが行われ、その後新緑の中を西沢山荘前田部重治文学碑に移動して、11 時から田部祭が開催された。文学碑の前で、山梨市観光協会三富支部の雨宮支部長から田部氏の笛吹川の渓谷遡上に思いを寄せるあいさつがあり、その後参加者全員で碑前に献花し碑前祭が終了した。碑に記されている「笛吹川を溯る」の一文は何度読んでも名文だと感心するが、山靴を模したという石碑が、「車」に見えるのは自分だけだろうか？

碑前祭が終わり渓谷の周回に出発した。個人として田部祭に参加した会員ら７名も合流して大人数のパーティーとなった。渓谷の水量は豊富であり、透き通った水と周りの新緑が素晴らしく天気にも恵まれて順調に渓谷沿いの道を遡って行った。女性たちは途中の岸壁に咲いている高山植物に目を奪われて写真を撮っていた。途中の開けた河原でお昼にしたが食べ物を分け合う光景はいつもの山行と変わらない。渓谷道の上部が崩落しているため途中から仮設道に移り、滑りそうな急坂を慎重に登って旧森林軌道に出た。ここから軌道終点まで歩くと、七ツ釜五段の滝が俯瞰できる場所がありゆっくり休憩した。

帰路の旧軌道沿いはシャクナゲが満開で素晴らしい花の道であった。鶏冠山をはじめ奥秩父の山々の主脈が一望できる展望台で山座同定を行った。ネトリ広場で山の神に無事下山のお礼を述べて、東沢山荘前の駐車場に戻った。そこで解散式を行い記念山行は終了した。天候に恵まれ新緑やシャクナゲが素晴らしく、全員無事歩き通すことができた楽しい山行だった。（小宮山千彰）

トピックス

これからの支部山行に思うこと

日本山岳会が公益法人になってからの支部活動は、登山を通して山岳自然文化を広く普及させる事が大きな目的になっている。今年度第９回となる「登山基礎講座」もその主たる事業であり、最近の新入支部員は「登山基礎講座」の修了者も多くなった。また支部山行への参加者も年々増えている。

入会の目的は、登山技術を習得して様々な個性を持つ多くの山に登り、趣味の世界を広げることだろう。5 月 23 日・25 日の両日に行われた新入支部員との「意見交換会」では、各人がそれぞれの期待を持って山に登りたいと考えていることが分かった。ゆっくり楽しく花を愛でながら登る山を求めている人、自分では登れない山に連れて行ってもらいたいと考えている人、クライミングに挑戦したい

人など、思いは各人各様だったが、登山を通して大自然に接したいとの希望が特に強いように感じた。
　そのような支部員が集まる中で、これからの支部山行（公募・会員）の在り方はどうあるべきか。それは、支部員が希望する登山の実現を大切にし、計画する山行の趣旨・目的を明確にして、参加者を募ることだろう。計画者は、自分が得意とする山行分野を担当し、自らの知識・技術を発揮することで専門性を一段と高めることができる。
　また木暮祭、田部祭、深田祭に関連した記念山行として、その趣に添った山へ登っているが、この山行を含めた山岳祭は、日本山岳会の目的とする山岳文化・歴史の継承を目的とした特別な事業であり、特に多くの支部員の参加を望みたいところである。
　支部山行は、山岳会としての支部の基幹とする事業である。安全登山を前提に、工夫を重ねながら一層の充実を図っていきたい。（山行委員会事務局　渡辺峯雄）

醍醐山を愛する会創立 10 周年

　令和 5 年 3 月 5 日（日）、醍醐山を愛する会 10 周年記念式典・総会が下部地区公民館にて、来場者 100 名を迎え開催された。この間、多くの方々から並々ならぬご協力をいただき今日に至った。特に尽力のあった団体・個人 11 名を表彰させていただいた。感無量であった。
　2012 年 5 月 22 日、東京スカイツリー開業と共に発見された標高 634.8mの醍醐山。きっかけは地元ハイキングの数日後、仲間からの 1 本の電話であった。日本中が東京スカイツリーに沸く中、全国の 634m の山を持つ地域は、これに便乗して PR 活動を始めているというのである。出遅れた醍醐山もここからドラマが始まる。
　醍醐山は、かつて日本の食糧庫として活躍していたが、高度成長と共に忘れ去られ、荒れ放題の里山になっていた。同年 7 月、「醍醐山を整備する会」を地元有志・山岳関係者で立ち上げ、10 月までに 100 名のボランティアで整備を進めた。そして「醍醐山を愛する会」が結成され、「山のスカイツリー『山と温泉』」をキャッチフレーズに、当時、震災・火災等で元気のなかった下部温泉を全面的に売り出した。
　面白い事は瞬く間に展開する。地元紙・山岳誌等への徹底した宣伝効果が功を奏し、誰も来なかった山に県内外から多くの登山者が来訪した。2013 年、新緑の 5 月・紅葉の 11 月、年 2 回の一斉登山を開催。参加者が 100 名を超える事もあった。醍醐山のブログ「醍醐山と下部温泉」楽天・フェイスブックの開設。6 年前より毎朝更新され楽天では毎日平均 1000 件前後のアクセスがあり、現在 160 万件に達した。テーマソング「希望の醍醐山」CD の制作。「醍醐山を学習の森」構想による樹木名看板と頂上までの距離看板整備。会員による、適宜の登山道整備。T シャツなど醍醐山グッズの製作販売。全国各地へ醍醐山登山 PR。都市と農村交流として渋谷区「くみん広場」へ出店し、地域特産あけぼの大豆等の販売。墨田区の六三四サミットへの参加。観光庁長官賞等の受賞。地域の酒米で造った清酒「醍醐山」の販売。三枝亭二郎落語会開催・・・。
　次々に活動を展開しているうち、気が付けば 10 年が経過した。会員は町内外 180 名。多くの方々に支えられ、地域のシンボルとして話題性を持ち、会は常に進化し続けている。この間、標高は 635m に改定されたが、醍醐山はこれからも進化を続ける山だと捉えている。（磯野澄也）

理事会報告

4 月 15 日　1.定時総会議案等の承認　2.支部山行・会員山行の報告・実績　3.第 9 回やまなし登山基礎講座案　4.新入支部員向け登山届説明会・意見交換会の開催案

5 月 10 日　1. 第 9 回やまなし登山基礎講座要項案　2. 支部山行・会員山行の報告・実績　3.第 4 回家族登山案　4.山岳古道調査日程　5. 新入支部員向け登山届説明会・意見交換会の開催案　6.支部通信発行　7.山岳祭補助金申請　8.懇親会案

6 月 14 日　1. 第 9 回やまなし登山基礎講座チラシ配布と PR　2. 第 4 回家族登山チラシ印刷と PR　3. 新入支部員との意見交換会の報告・対応策　4.HP・LINE の活用　5.「支部通信」『山岳』原稿　6.山岳古道調査　7.本部連絡会報告　（古屋寿隆）

編集　矢﨑茂男（広報担当）
住所：408-0114　山梨県北杜市須玉町藤田 502　TEL：090-7734-2788
Ｅメール：yazaki-s@taupe.plala.or.jp　**（随時、原稿をお送りください）**